

平成29年12月27日、課長級職員以上を対象に行われた年末訓示式での市長あいさつです。

私が就任して6年が経過しました。その間に新規職員も大勢入り、多くの部課長が退職したり、異動したりしました。そこで今年の春から、職員一人ずつ面接を始めましたが、話を聞いていると、職員同士のコミュニケーションが足りないと感じます。上司や同僚と「どういう人生を過ごしたいのか」といった仕事以外の話をしたことがないという職員が大勢いました。

管理職のみなさんから、あいさつはもちろん、「大丈夫？」と声掛けをしたり、仕事以外の話をしたり、聞いたりしてください。今、市民のみなさんに「我が事丸ごと」とお願いしています。まず、役所の中から、「我が事丸ごと」になって欲しいと思います。

これからの日本は、人口が大減少していきます。それに合わせて、経済や社会の有り方も変わっていきませんが、どう変わっていくのか想像してほしいと思います。それに合わせて、行政のあり方も変わっていく必要があると思います。

役所の仕事は、人口増加の時代は、会社の価値観、例えば正確、効率、画一的といった価値観に合わせたものでした。これからは、暮らしの価値観、あれもよし、これもよしの価値観が変わっていく必要があります。会社と地域、暮らしの価値観は、大きく違うことを理解する必要がありますが、仕事に一生懸命な人ほど、この価値観の違いを理解することが難しいのだろうと感じます。

新聞報道で目にすることがあるでしょうが、人口が減って、税収が厳しい自治体は、既に住民がいろいろなことをやらざるを得ない状態です。長久手市だけを見るのではなく、日本全体の有り様を、この年末年始にもう一度考えてほしいと思います。

子ども達が戻ってくる ふるさと

今、10歳の子どもが、働き盛りの40歳になる40年後、子ども達がもう一度、戻って来たいと思うふるさとは、どんなところでしょうか。

京都市内にユークコートマンションというところがありますが、建設当時、入居する人達で中庭に樹木を植え、今ではすっかり森のようになっています。他のマンションは、子ども世代は出て行ったきりですが、このマンションには、子ども達世代が戻ってきているそうです。

みどり、つながりがあるところが、子ども達が、「戻って来たい」と思うふるさとです。

愛知県がジブリ構想を立ち上げています。また交通渋滞の問題が起きるでしょう。であるならば、藤が丘駅を下りたら、木々でいっぱいの香流川沿いを歩いてモリコロへ行きたくなるような、みどりあふれるまちになるよう愛知県と協力して取り組んでいきたいと考えています。

相談する

今年は、計画づくりに多くの市民の方に参加していただきました。また、総合計画やみんなのまちづくり条例については、途中経過を全戸配布しました。途中経過をお伝えすることは、相談するということです。

例えば、車を買う際、夫がどの車種を買うか決めてから「車を買おう」と言ったのは相談ではありません。妻にも子どもにも、「どの車にしようか」と聞くところからが相談です。完成した計画を示して、意見を聞くだけでは、相談になっていないと感じます。

引っ越してきたばかりの市民にも、「まちの一員だと感じる」「まちに愛着がある」と思っていたきたいと考えています。そうした思いは、「私にも相談された」ことから生まれるもではないでしょうか。日本中が、住民参加を謳っていますが、相談することはできていないと感じます。

相談しながらつくと、時間がどうしてもかかります。でも、職員のみなさんには、「新しいまちのかたちを作っているんだ」という気概を持って取り組んでほしいと思います。

冒頭で、職員同士のコミュニケーションが不足していることをお話しました。「なぜ、市民主体のまちづくりが必要なのか」を話のきっかけにして、職員同士で話し合ってください。そして、職員が、みんな同じ言葉で、市民主体について市民にお話しできるようにしてほしいと思います。

最近、たくさん取材を受けています。国の方も、話を聞きに来られます。それは、やっていることが正しいからではなく、新しい取組を探しているからです。既に人口が減少しているところは、待ったなしです。でも、今の長久手は、試行錯誤しながら前に進むことができます。そんなチャレンジできる役所で働かせていただいています。ぜひ、一緒にやっていきましょう。